

<平成 29 年 6 月 23 日発表>

柳川観光列車『水都』リニューアル！

平成 29 年 7 月 22 日(土) 運行開始！

～電車内に新たに柳川藩主立花家の文化財レプリカを展示します～

- 西日本鉄道(株)では、現在運行中の柳川観光列車「水都」の車両およびデザインのリニューアルを実施し、平成 29 年 7 月 22 日(土)より運行を開始いたします。
- 福岡県を代表する観光地柳川をイメージした柳川観光列車「水都」(8000 形 6 両)は、平成 27 年 10 月 4 日(日)の運行開始以来、国内外の多くのお客さまにご乗車いただいておりますが、当車両が製造初年から 29 年経過したことから、3000 形へ車両の代替を実施いたします。
- 車両の外装デザインは、現在の「水都」のデザインテーマである「柳川の四季」を踏襲しながらも、新たに城下町・柳川に息づく武家文化を象徴する色として、すべての車両に格式と気品を表す「漆黒色」を追加し、歴史ある柳川の世界観を表現します。
- また、車両に設置しているディスプレイキャビネットには、従来の柳川観光パンフレットや物産品のほか、新たに立花家史料館より寄贈いただいた文化財レプリカを設置することで、電車内で城下町柳川の文化をお楽しみいただけます。そのほか、各車両には、柳川藩主立花家の鎧や刀などを紹介する 6 種類の記念乗車カードを展示いたします。
- さらに 3000 形の水都車内には、無料公衆無線 LAN サービス「Nishitetsu Train Free Wi-Fi」を新たに導入し、増加する訪日外国人観光客をはじめとする来街者の利便性向上を図ります。
- なお、現在運行している 8000 形水都は、7 月 22 日(土)の運行をもって引退いたします。引退当日は、8000 形車両から 3000 形車両への引継式を福岡(天神)駅にて実施いたします。報道各社の皆さまにおきましては、是非ご取材いただきますようお願い申し上げます。
- 当社では今後も、地域の皆さまと一体となって、観光地・柳川のさらなる魅力向上に努めてまいります。新しく生まれ変わる 3000 形の「水都」に是非ご期待ください。

■柳川観光列車「水都」リニューアルの概要

【運行開始日】 平成 29 年 7 月 22 日(土)

【内 容】 ①車両… 8000 形(6 両)から 3000 形(6 両)に変更
②外装デザイン… 各車両に城下町・柳川に息づく武家文化を象徴する色として、全車両に「漆黒色」を追加
③展示品… 立花家史料館より寄贈いただいた文化財レプリカを設置

【運 行 日】 毎日運行
※車両点検時(10 日毎と 3 ヶ月に 1 回の定期点検、その他点検)は別の車両で運行いたします。その際は、事前にホームページにてお知らせいたします。
<http://www.nishitetsu.jp/train/suito/index.html>

【運 行 区 間】 天神大牟田線 西鉄福岡(天神)駅～大牟田駅間

【料 金】 特別料金は不要です。通常の運賃でご利用いただけます。

【運 行 時 間】 現行の運行ダイヤと変更はございません。
《平 日》
福岡(天神)～大牟田間を 6 本(特急電車)
①福岡(天神)発時刻[10:30、13:00、15:30]※
②大牟田発時刻[11:52、14:22、16:52]※
《土休日》
福岡(天神)～大牟田間を 12 本(特急電車)

- ①福岡(天神)発時刻[7:30、10:00、12:30、15:00、17:30、20:00]
 - ②大牟田発時刻[8:52、11:22、13:52、16:22、18:52、21:25]
- ※車両検査により運行時刻が異なる場合があります。

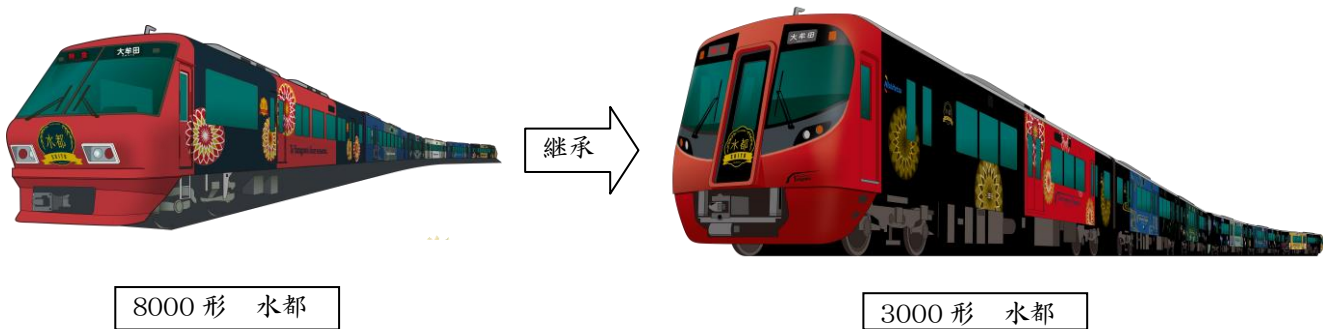
【投資額】 車両制作費 3300万円

■柳川観光列車「水都」の引継式について

- 【日時】 平成29年7月22日(土) 10時25分～11時05分
 - 【場所】 西鉄天神大牟田線 福岡(天神)駅 (福岡市中央区天神二丁目 11-2)
 - 【内容】
 - ①10時25分～開式
 - ②10時32分 3000形水都 入線[場所:3番ホーム]
 - ・挨拶 西日本鉄道(株)鉄道事業本部長 庄崎秀昭
 - ・祝辞 九州運輸局鉄道部長 首藤 郁一郎(しゅどう ゆういちろう)
 - 福岡県柳川市長 金子 健次(かねこ けんじ)
 - ③10時50分 8000形水都 入線[場所:2番ホーム]・レバーシングハンドル継承式*
 - ④11時00分 3000形水都 出発
 - ⑤11時05分 8000形水都 出発(回送運行)
- レバーシングハンドル*…前進・後進を切換え、ハンドルを開錠する鍵。
- 【その他】 現在運行している8000形の「水都」の運行最終日は、「引継式」当日10時07分筑紫発、福岡(天神)行き普通電車での運行となります。

デザインテーマ 『柳川の四季』

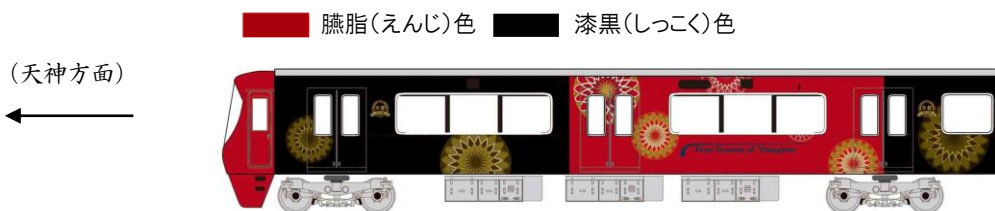
現行のデザインテーマ「柳川の四季」を踏襲しながらも、すべての車両に「漆黒色」を取り入れることで、武家文化を表現し、新しい「水都」として生まれ変わりました。内装は、外装と同じ伝統色を使い、統一感を持たせました。



◆ 外装イメージ ◆

《6号車》 春 -柳川まりと雛祭り-

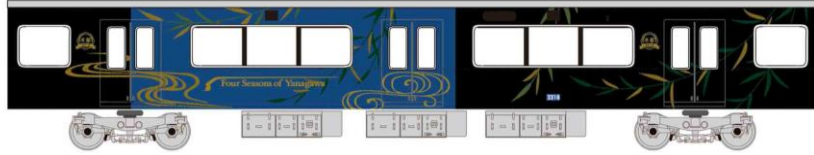
柳川の春の訪れを告げる「お堀開き」で掘割に豊かな水が張り巡らされる頃からはじまる「さげもんめぐり」に欠かせない「柳川まり」をデザインした車両です。



《5号車》 春 -柳の新緑と水面-

柳川市の木であり、柳川の景観をかたどっている柳に掘割の水流をデザインした車両です。水天宮祭が行われる頃、眩いばかりの新緑をまとった柳が掘割に影を落とします。

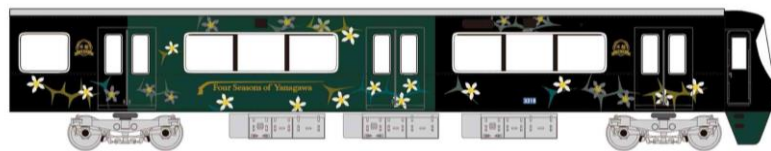
■ 紺青(こんじょう)色 ■ 漆黒(しっこく)色



《4号車》 初夏 -からたちの花-

童謡『からたちの花』は、作詞した北原白秋の通学路が原風景となっています。矢留小学校に隣接する白秋詩碑苑のからたちが毎年5月上旬、白い花を咲かせる様子をデザインした車両です。

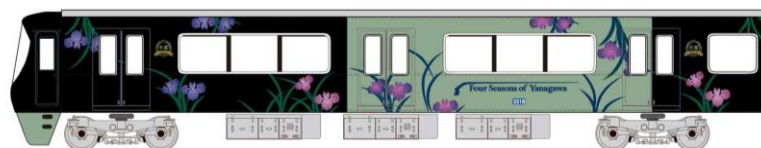
■ 深緑(ふかみどり)色 ■ 漆黒(しっこく)色



《3号車》 初夏 -花菖蒲-

柳川市の花でもある花菖蒲。初夏には、川下りコース沿いに約30万本の色とりどりの花が咲き乱れます。どんこ舟に揺られながら見る菖蒲は、風情があり別格です。

■ 灰緑(かいりよく)色 ■ 漆黒(しっこく)色



《2号車》 夏・秋 -有明海花火フェスタと白秋祭-

柳川の夏祭りといえば、「有明海花火フェスタ」。約7,000発の花火と全長3kmにもおよぶ「ナイアガラの滝」が多くの人を魅了します。秋には詩人・北原白秋を偲ぶ「白秋祭」が開催され、水郷柳川らしいどんこ舟での水上パレードが盛大に行われ、花火が夜空を彩ります。

■ 濃藍(こいあい)色 ■ 漆黒(しっこく)色



《1号車》

秋・冬-菊の節句と御花に越冬する鴨-

「菊の節句」は別名「重陽の節句」といわれ、毎年秋に菊に長寿を祈る祭事です。柳川ではその菊の節句に、春に出した雛人形を虫干しする習慣がありました。柳川藩主立花家の邸宅「御花」内にある松濤園では冬場に飛来する野鴨が群れ遊ぶ見事な景観をご覧いただけます。

■ 漆黒(しっこく)色 ■ 木蘭(もくらん)色



◆ 内装イメージ ◆

2号車に設置するディスプレイキャビネットには、柳川の物産品を展示するほか、新たに立花家史料館より寄贈いただいた柳川藩主立花家伝来品をイメージさせる文化財レプリカを展示いたします。

ディスプレイキャビネット



【展示品一例】



らいきりまるこしらえ

【雷切丸拵】立花家史料館監修 西岡甲房制作
(京都国立博物館所蔵「金熨斗刻鞘拵」写)

立花家初代が雷を切った刀として、初代柳川藩主・立花宗茂へと譲られた「雷切丸」。その失われた拵を宗茂所用と伝わる現存の拵をモデルとして新たに制作しました。



鉄鍔革包月輪文具足

てつしぼかわつづみがかりんもんぐそく
立花家史料館所蔵

青年期の宗茂が着用したと伝えられる甲冑は、大ぶりで非常に重いため、宗茂は立派な体格であったと想像されます。鉄を革で包んだ胴に、朱色の漆で描かれた丸「月輪貫文」は、江戸時代の立花家の道具帳では「月輪」とよばれています。宗茂は生涯、十回以上も改名しました。この甲冑の頃は「統虎」「宗虎」「正成」「親成」と名乗っていたようです。

タケノコ
立花宗茂 (1567-1642)

大友宗麟・義統、豊臣秀吉、徳川秀忠・家光のもとで誠実にはたらき、勇猛な武将として戦国の世を駆けぬけ、初代藩主として柳川藩11万石の礎を築きました。



Yamaguchi
Yamaguchi



栗色革包仏丸胴具足

くりいろかわつづみほとけどうぐそく
立花家史料館所蔵

関ヶ原合戦の頃に作られた宗茂の甲冑は、胴の栗色革や草摺の朱漆、佩桶の銀箔という色彩に、戦国時代らしい大胆な華やかさを感じます。

西軍として関ヶ原合戦にのぞんだ宗茂は、近江大津城を落城させましたが、本戦には間にあわず、筑後江上・八院で鍋島軍と激しく戦った後、東軍方に柳川城を明け渡しました。

タケノコ
立花宗茂 (1567-1642)

大友宗麟・義統、豊臣秀吉、徳川秀忠・家光のもとで誠実にはたらき、勇猛な武将として戦国の世を駆けぬけ、初代藩主として柳川藩11万石の礎を築きました。



Yamaguchi
Yamaguchi